西洋史研究会

私達は四十五年度から新しく共同研究を始めましたが、これ迄の学生ゼミへの反省から出発しています。本誌で全研究会が紹介されたのは五年も前の第十三号以来のことで、国史は今のように細分化せずに三つの研究会から成っていました。そこで過去を受け継ぎつつ乗り越えるために、当時と対比して現在を位置づけたいと考えます。

〔前近代史部会〕「東洋史研究会」は、「任務は事実の究明と歴史理論の樹立にある」とし、「人類全体の発展の跡を統一的にとらえ」ようとし、「東洋史は世界史の一遇をなすもの」とかって主張していました。私達もこの世界史的立場で西洋史を把え返して来ましたが、更に、西洋史から帰納された理論をよくドグマとして世界にあてはめるか、事実に合わないからと修正してしまうので、実証的な成果を摂取し乍ら理論を研究に適用し、逆に体系的に発展させたいと思っています。具体的には、『諸形態』の英訳をテキストにして毎週数時間厳密に皆で読み合わせ、本源的所有の諸共同体の規定をアジア・古典古代・ゲルマンという各自の専攻領域毎に検討してきました。来年度は奴隷制・農奴制という社会構成の諸段階を古代史部会・中世史部会に分化して、専門的な研究と平行してテキストの後半を共に考えて行きます。また新入会員の皆さんと前半をもう一度、独原文や仏訳を対照して読み直したいと思います。古典は繰り返し読んでこそ内容の理解が深まるものですから。

〔近代史部会〕かっては「フランス革命研究会」があり、「市民革命の講義があるので、古典的ブルジョワ革命を研究課題にし」「歴史研究の目標は、真の民主革命の実現に貢献」することであると喝破していた。私達も創造的な共同研究を通して如何に主体的に生きて行くかを考え続けて来ましたが、民主主義の歴史的な諸形態の再検討からむしろ仏大革命の限界を批判せざるを得ず、人間の根底的な解放を目指しています。しかし研究会を政治グループに化するのは誤りと考え、昨年度分れた近代史専攻の学友と討論し、合同で『宣言』を独原文を参照しつつ歴史的理論的に読み合わせて来ました。来年度も『宣言』を共通テキストとして近代の政治経済の研究を続けますが、現代史部会を設けてロシア革命やドイツ革命のテーゼを原語で読み始めたいと思います。

〔方法論部会〕私達は可能な限りの豊かな史料と対決して具体的な実証研究をしようとして来ましたし、それが歴史科学の前提的な必要条件と考えますが、分析のための方法もまた平行して追求しなければならないと痛感して、『序説』を理論的に読み合わせて来ました。経済学の方法論が歴史研究にも適用出来るからですが、そこからこれ迄の研究内容の最高成果が、新たな研究への最も進んだ方法となりうるし、そうしなければならないと考えるようになりました。そこで来年度は、『序説』は経済学を課題とするサークルで読み続け、方法論よりも「基礎理論部会」として特に新入生の皆さんと歴史科学論や研究史を摂取したいと思います。

以上枚数の制約によって説明が不十分になるのは、毎週の例会でも時間の制約で途中迄しか深められないのと同じですが、夏休みと春休みの合宿では深夜までの徹底的な共同研究で活動を総括し新しい展望を構想しています。

宮崎
岩丸